

# 「つなぐ」「つながる」「つなげる」進路支援をめざして

熊本県立荒尾支援学校

本校では昨今の時代的背景を踏まえた四つの具体的教育指針を新たに決めました。そのひとつが『過去・現在・未来及び地域と「つなぐ」教育』です。これは、進路支援の重要性を特に言い表した指針であり、更なる創意工夫と熱意をもった進路指導及び進路に関連する学習の改善を推進して参ります。

本稿では改善の概要を、本年度より導入した学校2期制との関連も含め、「つなぐ」と、その活用形「つながる」「つなげる」を用いてご紹介いたします。

## ■「つなぐ」進路支援

生徒の進路決定に不可欠な相談支援事業所等との連携を、昨年度よりも早い段階から開始します。具体的には昨年比で2ヶ月前倒ししたスタートとし、利用する障がい福祉サービスの種類や希望事業所を前期中（10月初旬）に決定する予定です。これに伴い、3年次現場実習の時期を6月・9月実施へ変更しました。後期になると早々に「ニーズ調査」「校内移行支援会議」を実施。相談支援事業所へ積極的に情報提供し「サービス等利用計画」作成を支援して参ります。本校の相談支援事業所との連携は、すでに外部から高い評価を頂いておりますが、現状に甘んじず更に支援機関との連携を深めて、よりよく「つなぐ」ことができるよう努めて参ります。

## ■「つながる」進路相談

本年度より、高等部一般学級における進路相談を、時期・回数・時間・内容ともに充実させ、保護者と、より強く「つながる」ことができるよう努めて参ります。学校2期制に移行することに伴い、夏休み直前や秋休み中の活用など、学校2期制のメリットを最大限生かした進路相談を実施し、卒業後に向けて、生徒一人一人の「未来への夢や希望」を十分語り合いたいと思います。

## ■「つなげる」教育実践

高等部一般学級では、従前より現場実習の前段階として、作業学習の内容に検討を加え充実させて参りました。それぞれの現場実習先で体験する業務や生活により近い内容を作業学習（校内実習）で疑似体験し、円滑に現場実習に移行できるようにしたこの取組は、実習受け入れ先のみならず、実習生本人からも高い評価を頂きました。（平成25年度熊本日日新聞掲載）



作業基礎：ピッキング

「ピンセットで、慎重に。」



作業学習：清掃班

「ウインドスクイージーは任せて」

本年度は、就労移行支援事業所と連携して、ワークサンプル法を取り入れた「作業基礎」と、進路相談に活用する評価システム導入しています。また、卒業後の就労生活で求められるスキルを具体的に指導する「清掃作業」も開始しました。これまでの「モノ作り」作業の良さに加えて、現場を意識した実践的な学習を編成し、社会に「つなげる」教育実践を目指します。